
自己の証明

零・ZA・音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自己の証明

【Nコード】

N4495A

【作者名】

零・ZA・音

【あらすじ】

自分を証明する”もの”……それはなんだろう。自分が自分だと認識する”もの”……それはなんだろう。そんな迷いの世界に落ちた、一人の男の物語。

俺は誰だ。

この広い世界で俺を知っている人間は何人いる？。

俺が……俺である為に必要なものはなんだ。

暗い場所だが、ここはどこだ？ ここには何も無い。

俺は何故、こんな場所にいるんだ……。

「君は、自分を知っているか？」

男はそう言い、俺を見つめる。その瞳は深い漆黒のような黒。吸い込まれてしまいそうな、その瞳から目を逸らし答える。

「知っている」

「それは誰が決めたのかね？」

また、男は聞いてくる。その顔は笑っていた。

俺を嘲笑っている。

「それは、俺だ」

「では……君が君である証明はなんだね？」

男は聞く。

その瞳は俺を離さない。この男は誰だ。そもそも、ここはどんなんだよ。

俺は普通に生活してたはずだ。

「俺が俺である……証明？」

「……そうだ。君が君がある為には、他者が必要だ」意味が分からなかった。

俺は俺だ。

俺が俺である為に何故、他人が関係してくるんだ。

「何故、他人が必要なんだ？」

「それは、君の記憶……」

俺の記憶ってなんだ？

どういう意味だ。だが、男は笑うだけ。俺を見て、蔑むように笑うだけ。

「俺の記憶がなんなんだよっ！」

俺は声を荒げ、男を問い詰めた。だが、男は冷静に、
「君が自分だと思う人間は、本当に君なんでしょうか？」

と、だけ答え、また笑う。その笑みに、言いようもない不安を覚えてしまう。

……こいつは何者なんだ？

俺をどうしたいんだよ。

「人間の”自身の証明”には他者の認識が必要です。他者が君を”君”だと認識して、初めて君は自分の存在を理解します」

「それが記憶……だとしても、言うのか？」

「そうです……。記憶を失えば、例えば他者が覚えていても、自分は自身の存在を認識出来ませんよね？」

男は俺の頭に、そつと手を置いていく。その手は異様に冷たく、まるで死んでいるように感じた。

「君が君である為の記憶　それは、他者から刷り込まれた記憶」

男の口元が怪しく歪む。

その口から放たれる言葉は、感情の籠っていない無機質な声。

「だから……君の記憶と君を知る全ての人間の記憶を、消してみましよう」

「っ！　な……何をする！」

男は静かに俺の頭から手を退けていく。そして笑う。

卑しく口元を歪めて笑う。

「そして……代わりに、私の記憶を埋め込んでみましょう」

突如、頭の中が割れるような痛みが襲ってくる。

頭の中を得体の知れない何かが這い回っているような感覚がして、次いで何かが流れ出していく感覚。

思い出が、家族の顔が、大好きな人が、俺の中から次々と抜けて

「君の記憶を消しました……。これから君が”この番人”です」
静かに話す男。誰だ……？ この男は、誰なんだ？
そして、俺は 誰だ？

「これからは 私が君です」

静かに踵を返し去っていく名も知らない男の背中を見送り、俺は
意識を手放していた……。

君は”君”である証明を出来ますか？

（後書き）

書いてる自分自身も理解するのが、困難でした。
読んでいただければ嬉しいです。
感想お待ちしています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4495a/>

自己の証明

2010年12月18日23時34分発行